

Ⅱ－6 多発肝転移を伴う切除不能膵癌に対して FOLFIRINOX 療法後に  
切除を行い、病理学的完全奏効が得られた一例

○丹場太陽、若狭悠介、板矢晶子、山本健、長瀬勇人、木村憲央、  
石戸圭之輔、袴田健一  
(弘前大学大学院医学研究科 消化器外科学講座)

症例は 40 歳代男性。多発肝転移を伴う切除不能膵癌に対して FOLFIRINOX 療法が行われた。計 25 コース施行し臨床的部分奏効を維持、手術目的に当科紹介となった。画像診断上原発巣は切除可能であり、肝転移巣は消失を認めた。亜全胃温存膵頭十二指腸切除術を行い、病理所見では腫瘍の消失を認めた。膵癌に対する化学療法の発展とともに、これまで切除対象とならなかった肝転移症例に対して切除が有効である報告も見受けられる。しかし、病理学的完全奏効が得られた症例は稀である。本症例に文献的考察を加え、報告する。